

■学校経営のポイント

実行性ある目標の立て方

喜名 朝博

新年、「今年こそは」と目標を立てるが、年末になるとその目標が何だったのかさえ思い出せない。毎年こんなことを繰り返している。考えてみれば、目標を立て取り組み、振り返るというこの行動様式が身についたのは、学校教育の成果である。学校は目標を立てること、めあてをもって行動することを大切にしてきた。

目標があふれている

教室の正面には学校の教育目標が掲げられている。その他にも学年目標や学級目標、今月の生活目標や給食の目標もある。子どもたち一人一人の目標が掲示されている学級もある。学校には目標があふれている。目指すものが多くなれば、子どもたちの意識も薄れてしまう。学校のユニバーサルデザインの観点からも、教室正面の掲示物の整理が必要だ。

目標の整理を

学校で最も重要な目標は、「教育目標」である。その目標を各学年の発達段階や各学級の実態に合わせてブレイクダウンしたものが学年・学級目標ということになる。学校の教育目標の実現を目指し、具体的に学年・学級でどう取り組むか、年度当初に子どもたちと話し合いながら決めていく。他の目標も教育目標との整合性が不可欠だ。目標を設定する際には、常に教育目標と関連付けることを大切にしていきたい。

教育目標を明確にする

教育目標はお飾りではない。全ての教育活動は、その目標を目指して行われている。子どもたちや教職員が常に意識できるように、教室の前面に掲げられているのだ。ただ、その教育目標も時代や子どもたちの変化に応じて見直す必要がある。現行の学習指導要領総則には次のような記述がある。

「教育課程の編成に当たっては、学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、各学校の教育目標を明確にするとともに、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする」。(第2の1)

学校として育成を目指す資質・能力と教育目標が合致していなければ、修正したり再解釈したりして明確にしていくことが求められている。さらに、保護者や地域にも説明し共有していくことが大切だ。

4つの目標

教育目標は、理想の姿を示す「状態目標」となっていることが多い。例えば「よく考える子」は、どのような場面でもよく考える子であることを目指す状態目標である。一方「九九を覚える」というのは到達目標や成果目標とも呼ばれる「結果目標」。結果目標にはゴールがあるが、状態目標は方向性であってゴールはない。状態目標や結果目標に向かっていくために具体的に何をするか、それが「行動目標」である。「九九を覚えるために、登校前に5回唱える」のように、具体的な数字を入れると行動しやすい。また、「今週中に八の段を覚える」という「中間目標」を設定すると取組意欲が高まっていく。

目標の達成の仕方を考える

学校は目標を立てることを大切にしてきた。しかし、そのために何をするのかといった行動目標の立て方を丁寧に扱ってこなかったのではないかな。

なりたい自分は状態目標や結果目標。それに近づくために具体的に何をかが行動目標である。さらに、その行動目標に実行性をもたせるために中間目標を設定するという方法知が身につけていけば、自分も同じ轍を踏んでこなかったかもしれない。

(きな・ともひろ＝国士舘大学教授／全国連合小学校長会顧問)

●校長・教頭のための学校経営手帳！●

2025 スクール・マネジメント・ノート

教育開発研究所【編集】 A5判変型／定価 2,750 円

■本の詳細の確認およびご注文は、右QRコードより小社ホームページをご利用ください。

